

ふるさと

もどれない故郷 ながどろ

—飯館村帰還困難区域の記憶—

長泥記録誌編集委員会編 A5判ソフトカバー400頁 本体 2,400円 ISBN978-4-8295-0676-9



東京電力福島第一原子力発電所事故から5年、
原発から最も離れた帰還困難区域「福島県飯館村長泥行政区」の
74世帯281人の人々は“戻れないふるさと”への思いを断ち切れずに苦しんできました

本書は、風化しつつある被災地長泥の生活の記憶を後世に伝えるために
住民たちが積極的に関わってつくられた記録誌です

「第1部 写真で見る長泥」は
家々のアルバムから剥がされた写真と、事故後現地を取材し続けている写真家の作品
をもとに編集。共に生きてきた地域の歴史が浮かび上がってきます。
「第2部 聞き書きでたどる長泥」は
住民と密接なコミュニケーションをとり続けてきた大学教員・ジャーナリスト・自治
体職員らによって実施された聞き取りなどをもとに編集。住民同士の結束力の強さ、
ふるさとへの深い愛着などが行間から滲み出てきます。



3月12日(土)17:30~
TBSテレビ「報道特集」で
長泥のこの5年間の放映
この本も紹介されます



第1部 写真で見る長泥

■福島原発事故後の長泥

1. 長泥のいま
人が消えた集落／かつては暮らしがあつた／それでも花は咲く／増える動物、めぐる生命／見えない放射線／今も続く長泥のコミュニティ
2. 原発事故直後の長泥

■故郷の記憶

長泥の暮らし・家族／祭り
と伝統芸能／なりわい／長泥小学校の思い出／体育大会／婦人会・老人会／子どもを育む／比曾川の生きもの／集落を守る／豊かな自然 [144頁]

第2部 聞き書きでたどる長泥

※35家族50人の聞き書きで、
長泥のコミュニティの結束を
今に伝える [240頁]

◎地元委員
(飯館村長泥行政区)
金子益雄 (元区長)
佐野 太 (元区長)
鳴原新一 (副区長)
鳴原良友 (区長)
庄司正彦 (庶務)
杉下初男 (前区長)
高橋正弘 (会計)

◎外部委員
大渡美咲 (産経新聞社)
トム・ギル (明治学院大学教授)
黒坂愛衣 (東北学院大学准教授)
佐藤 忍 (横浜市教育会館)
関根 学 (写真家)
福岡安則 (埼玉大学名誉教授)
本田晃司 (福島県庁)
前田せいめい (写真家)
山中知彦 (新潟県立大学教授)
依光隆明 (朝日新聞社)

3月7日 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 2月19日(金) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
もどれない故郷ながどろ		
3月上旬新刊 本体 2,400円	部	